

I 「酒に酔ってはいけません（原語：酔っぱらい、飲んだくれになってはいけない→酒に呑まれ、酒に支配され、酒に溺れ、酒の中毒になってはいけない）。※「酒を飲んではならない」ではない→「胃のために、また、たびたび起こる病気のために、少量のぶどう酒を用いなさい」（Iテモテ5：23）。「そこ（酒に酔い自制がきかない状態）には放蕩があるからです」。「放蕩」：原語の意＝放蕩の生活、品行、普段の行いのおさまらない事）、酒に酔ってはいけない。そこには、放蕩、不品行があるからです。酒に酔う時、自制、セルフコントロールが失われ、不品行、みだらな行為に陥らないように祈りたい。夜の街での接待を伴うお酒の場でコロナに感染しないように気を付けたい。家庭で、お酒を適度に健康に気を付けて飲める人は幸い。お酒に酔い過ぎて理性の間かない行動を取り、信用、仕事、家庭、自分の体、経済、人生を壊すことがないように祈りたい。※酒に酔う不品行だけでなく、麻薬、覚せい剤に酔う＝支配される事にも気を付けたい。神から与えられた体、人生を大切にしたい。※私自身、主を信じていなかったら、お酒を適度に楽しむことが出来ず、お酒におぼれ、支配され、ひどい人生を歩んでいたと思う。私に誇れることはない。ただただ主に感謝している。主の救いを多くの人にご紹介したい！

II 「むしろ、御霊に満たされなさい」※新しい訳の聖書には原語にある「むしろ」が記された。

1. 「むしろ、御霊に満たされなさい」。御霊は、人格のある神、素晴らしい助け主。むしろ聖く生き、感謝する事、真の知恵をもって歩む事、主のみこころを悟る事を助ける方！主を信じ、救われて生きる生き方は、消極的な人生ではない。主にある生き方は、神が与えられる新しい力をいただく人生！それを明確に表すのが、「むしろ」御霊に満たされなさい。「むしろ、御霊（心の深い満たし、素晴らしい力を与える方）に満たされなさい」は、罪の力から解放される喜びの人生！ ※文脈：結婚、親子関係、仕事等の人間関係の源の愛、力、識別力を御霊なる神は与えて下さる素晴らしい方！

2. 御霊に満たされる（人格をお持ちの神である御霊に満たされる、支配される。御霊の愛の愛、喜び、平安に満たされる）恵み。 ①素晴らしい御霊なる神に満たされる時、そこには、聖さ、自制（セルフコントロール）が生まれる。御霊は「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」（ガラテヤ5：22, 23）という実を私達の心と生活の中に結ばせて下さる。御霊は、私達と心の中で交わり、神との交わり、主にある者の互いの交わりを生み出される。 ②素晴らしい御霊なる神に満たされる人は、神から与えられた体、能力、時間、経済を、御霊の与えて下さる判断、分別、知恵により、主の為に十分に生かして用いる人生に変えられる。 ③素晴らしい御霊なる神は、私達の機能、意志、知性、判断力に聖なる力を与えてくださる。

3. 「御霊に満たされなさい（原語：現在形の命令形。「満たされ続けなさい）」とは＝素晴らしい御霊なる神（愛と聖なる人格をお持ちの方）に満たされ続けなさい。酒に酔い過ぎて、自分をコントロールできない人生ではなく、むしろ、御霊に満たされ、御霊に心を支配され、聖なる自制、セルフコントロールをいただく人生。

素晴らしい御霊なる神に満たされ（支配され）続けるには。 ①御霊によって絶えず主のもとに行く。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来（原語：続けて。礼拝、祈り、御言葉の継続）て飲み（続け。継続）なさい。わたしを信じ（続け）る者は…その人の心の底から、生ける水の川が流れるようになる（これは御霊のこと。：39）」ヨハネ7：37, 38。御霊を祈り求める。「天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えてくださいます」ルカ11：13。 ②御霊により、御霊なる神が働かれて完成した聖書の御言葉を読み味わい、心と教会の交わりに住ませる。「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むよ

うにしないで」コロサイ3：16。※エペソとコロサイの文脈。③自分の罪により「神の聖霊を悲しませてはいけません」（聖霊なる神は、人格をお持ちの方）エペソ5：30。御聖霊が罪を示して下さったなら、悔いて、改める。素晴らしい御霊に満たされる事を邪魔する自分の罪を、神に告白し（Iヨハネ1：9）、赦しときよめをいただき、神との関係を回復する。そうすれば、聖霊は豊かに働いて下さる。私達に聖なる力が与えられる。④素晴らしい御霊が宿っておられる教会（Iコリント3：16）、主の体である教会の礼拝に参加し、主を中心に互いに交わり、御霊の一致を保つ。「教会は…いっさいのものによって満たす（：18と同じ原語）方の満ちておられるところです」エペソ1：23。※コロナ禍の中で、体調を考慮し、ご自宅で礼拝される中でも、御霊は臨在されている。

Ⅲ 御霊に満たされる恵み、結果、御霊が生み出して下さる恵み。18節は、鍵となる恵みで、19節以降と繋がっている。

1. 「詩（詩篇）と賛美（頌栄歌、賛美歌）と霊の歌（聖霊による信仰的感動により生まれた歌）をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい」：19。①御霊なる神は、詩と賛美と霊の歌を生み出される。②順序に意味がある。まず、神の恵みに感謝し、神を賛美する。それから、「互いに語り合い」→噂話、陰口、悪口ではなく、神を賛美しつつ、お互いに神の素晴らしさ、みことばの恵みを分かち合う。③「主に向かって心から賛美し、歌いなさい」。「主に向かって」→人に向かってではなく。歌集に向かってでもなく。私達を造り、命を与え、救い、愛しておられる偉大な主に向かって賛美したい。※賛美礼拝の恵みの証し。礼拝で、日常生活の中で、車の中で、歩きながら、皿を洗いながら、掃除をしながらも。主を賛美していると、主の臨在を感じる恵みがある。④「心から」。真心込めて。他の事を考え、心ここにあらずではなく。主の恵みを思い、主ご自身を思い、心から主ご自身を賛美したい。主は、私達の心からの賛美を喜ばれる。

2. 「いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい」：20。御霊に満たされる時、賛美と感謝が増す。御霊は、主の良くして下さった恵みを何一つ忘れないように導かれる。相互作用の恵みがあり、御霊により神に感謝する時、ますます、私達の心が御霊に満たされる。いつでも、すべてのことを、神は支配しておられる。すべての事は偶然ではない。すべての事には、神のご支配、ご計画、意味がある。限界のある私たち人間には、すぐには理解できない事があるが。神は、すべてを益（私達が神に近づく）として下さる。ローマ8：28。嬉しい時、苦しい時、いつでも神の恵みを数えたい→今ある命、体、日毎の糧、住まい、主の十字架と復活の恵み、罪の赦しと永遠の命（主を信じた時から与えられる永遠に神と交わる事が出来る命）、大切なひとり子さえお与えになった父なる神の大きな愛、御聖霊の交わり（御聖霊との交わり、神との交わり、キリスト者との互いの交わりを生み出して下さる）、神による出会い、教会の祈り合い、苦しみを通して謙遜と神に頼る信仰と人への思いやりを深めて下さる恵み。願い通りにならない事から深く教えられる神の恵み → 作者不明の詩：人生の祝福

「大事を成そうとして力を与えて欲しいと神に求めたのに、憤り深く従順であるようにと弱さを授かった。より偉大な事が出来るように健康を求めたのに、より良き事が出来るようにと病弱を与えられた。幸せになろうとして富を求めたのに賢明であるようにと貧困を授かった。世の人々の称賛を得ようとして権力を求めたのに、神の前にひざまずくようにと弱さを授かった。人生を享楽しようとしてあらゆるものを求めたのに、あらゆる事を喜べるようにと生命を授かった。求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた。神の意に添わぬ者であるにもかかわらず、心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた。私はあらゆる人生の中で最も祝福されたのだ」